

特別養護老人ホーム 皆生みどり苑

1 基本方針

- ・個人の尊厳を尊重し、安心安全な生活が送れるよう支援する。
- ・利用者一人ひとりの生活リズムに合わせた個別ケアを推進し、その人らしさを大切にした生活を提供する。
- ・施設機能を活用した地域貢献を行うとともに、積極的な情報公開により透明性を高め、信頼される施設を目指す。
- ・社会のニーズに応じ、高齢者・障がい者等が共に暮らす共生社会づくりに貢献する。

2 利用者の状況（令和7年3月31日現在）

（1）入退所の状況（2）利用者の介護度別人員

定 員		前年度末 利用者数	令和 6 年度中の入退所状況					利 用 延人員	年間平均 稼 働 率	年 度 末 利用者数
			入所	退所	退所理由別					
					施設 移管	契約解除 (入院等)	死亡			
100人		98人	26人	25人	1人	3人	21人	35, 541人	97. 61%	99人
5 年度	100人	99人	29人	30人	0人	5人	25人	35, 648人	97. 40%	98人

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男 性	0人	0人	1人	6人	9人	16人
女 性	0人	1人	5人	37人	40人	83人
計	0人	1人	6人	43人	49人	99人

（平均介護度4.41）

3 事業の実施状況

（1）重度者ケアの充実

- ア 安心・安全な生活環境を提供するため、嚥下機能低下や褥瘡予防及び心身状況に応じたケアに必要となる情報を、サービス担当者会議等により多職種で共有した。
- イ 職員と利用者双方の負荷軽減のため、福祉機器の選定やノーリフトケアの実践に必要な情報を伝達した。加えて、介護機器の展示会に出向き情報収集しデモ機を試用した。しかし当苑の需要を満たす機器を選定できなかったため、引き続き情報収集をする。
- ウ 嘱託医、協力医療機関及びその他医療機関との連携を図り、利用者の健康管理に努めた。加えて、嘱託医と職員が利用者の情報を共有し、経管栄養等の医療的ケアを提供した。
- エ ご家族と緊密に連絡を取り、利用者・ご家族双方の気持ちに沿ったターミナルケアとなるように努めた。加えて、穏やかに最期を迎えられるよう、身体への負担軽減に必要な情報を多職種で共有した。さらに、ターミナルケア検討会が主導して職員に対する研修とターミナルケア後の振り返りを実施し、資質向上と精神的な負担の軽減を図った。

(2) 個別ケアの充実

- ア 業務効率化と記録の電子化のため介護 ICT 機器の連携作業を進めたが、令和 7 年 4 月にずれ込んだ。一方、栄養情報などを介護記録ソフトに入力することとし、記録の一本化で多職種での情報共有をしやすいとしたほか、LIFE を活用したケアプランの内容の見直しに取り組んだ。
- イ 今年度も 24 時間シートを活用したケアを実践した。内容を定期的に見直し、利用者の生活リズムや意向を反映させることでケアの質の向上及び現状の把握に努めた。
- ウ 個々に応じたプラン立案のため、残存能力を発揮するための福祉用具の活用やデモ機を使用する等の取組みをした。加えて、感染症対策との両立を図りながらボランティアを積極的に受け入れ、活動量の増加及び余暇活動の充実を図ったほか、施設全体で実施するレクリエーションを拡充した。
- エ 嘱託医と連携し、入所前から受けていたケアなどを含め、入所前の状況をもとに個々にあった治療等を受けられる環境を可能な限り整えた。
- オ 利用者の意向に沿った食事の提供及び満足度の向上のため、嗜好調査及び残食調査を実施した。これらの結果を給食委員会にて協議し、嚥下や咀嚼の状態を加味した献立を検討した。また、令和 6 年度も利用者と職員で合同食事会等の行事を実施し好評であった。

(3) 安定した施設運営

- ア (ア) 入所及び地域密着の稼働率は 97.61 %、短期入所の稼働率は、60.14 %であり、入所、地域密着及び短期入所の全てにおいて、稼働率は目標を超えた。
- (イ) 欠員期間は、13.77 日で目標を達成できなかった。空床期間を短縮するため早期の入所面接をしたが、待機先及び当苑での新型コロナウイルスのまん延等が理由に挙げられる。
- イ 新型コロナウイルスの罹患者発生時には必要に応じて会議を開き、対応策などをさくら連絡網で全職員に発信、情報共有と注意喚起を促した。
- ウ ボランティアの受け入れと、地域からの要請があった講師派遣を実施した。一方で新規申込者数は近隣における介護医療院の開設等の影響で減少している。新規利用及び短期の継続利用者の確保は今後の課題である。
- エ 生産性向上委員会を立ち上げ、積極的な研修の受講に加え、ICT 機器を活用した生産性向上の協議をした。各部署から課題は挙げられたが、職員の負担軽減と介護の質の向上を両立できる解決策は見いだせていない。今後も積極的な部署間の協議や情報収集などにより、ICT 機器を活用した生産性向上に取り組んでいく。

4 実習、ボランティアの受入状況

(1) 実習の受入実績

実習受入先	受入期間	実人員	延人員
介護等体験（鳥取県社協）	R6. 8. 19～ R6. 8. 23	1人	5人
米子北高等学校看護科 介護実習	R6. 9. 9～ R6. 9. 13	6人	30人
鳥取県新規採用職員体験研修Ⅱ	R6. 10. 24～ R6. 10. 25	3人	6人
計		10人	41人

(2) ボランティアの受入実績

敬老週間行事（ハーモニカ演奏等）、オカリナ演奏、昭和歌唱披露、鳥取県ボランティア体験事業、大福茶会における着物の着付け、米子北高1年生探求学習（延べ 45人）

5 付帯事業

(1) 短期入所事業 定員 併設6名及び空床型

年度	実人員	延人員
令和6年度	10人	1,317人
令和5年度	12人	592人

(2) 高齢者世話付住宅援助員派遣事業 定員 22世帯

相談等状況	訪 問	電 話	その他	合 計
安否・健康状態の確認	817件	0件	4,236件	5,053件
生活支援・相談	401件	74件	0件	475件
緊急時の対応	0件	57件	0件	57件
合 計	1,218件	131件	4,236件	5,585件